

8章 海岸工

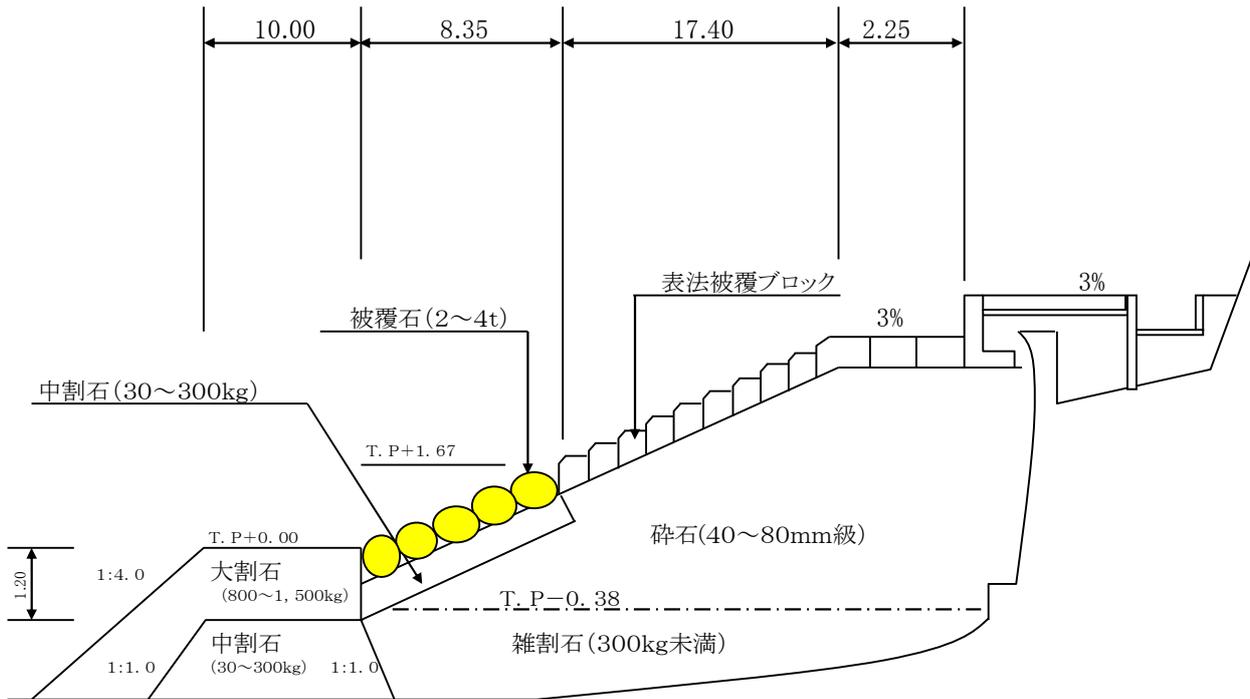
8.1 緩傾斜堤

1. 適用

3割より緩い表のり勾配を持ったコンクリートブロック等の張り式の堤防・護岸の設計に適用する。

緩傾斜堤の主要諸元

参考略図(5割堤の場合)



2. 数量算出項目

緩傾斜堤の各項目の数量を区分毎に算出する。

3. 区分

区分は、材料、コンクリート製品等とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	材料(骨材、割石、碎石)	コンクリート製品	規格	単位	数量	備考
盛土工		○	×	○	m ³		仮設マウンド含む
基礎工		○	×	○	m ³		
表のり被覆工		○	○	○	個、m ²		
裏込工		○	×	○	m ² 、m ³		
波返工		×	○	○	個		
天端被覆工		×	○	○	m、m ²		
排水工		×	○	○	m、m ²		
排水処理工		○	○	○	箇所、m、m ² 、m ³		
端部工		○	×	○	m ² 、m ³		

(2)材料(骨材、割石、砕石)区分

材料の区分は、下表の通りとする。

	被覆石	大割石	中割石	雑割石	砕石	切込砂利
盛土工	×	×	×	○	○	○
基礎工	×	×	○	×	×	×
表のり被覆工	○	×	×	×	×	×
裏込工	×	×	○	×	×	×
天端被覆工	×	×	×	×	×	×
排水工	×	×	×	×	×	×
排水処理工	○	○	×	×	×	×
端部工	○	○	○	○	×	×

(3)コンクリート製品区分

コンクリート製品区分は、下表の通りとする。

	被覆ブロック	波返しブロック	天端被覆ブロック	小口止ブロック	U字型側溝	落差柵	ヒューム管
表のり被覆工	○	×	×	×	×	×	×
天端被覆工	×	×	○	○	×	×	×
波返工	×	○	×	×	×	×	×
排水工	×	×	×	×	○	×	×
排水処理工	×	×	×	×	×	○	○

4. 数量算出方法

数量の算出は、「1章基本事項」によるほか下記によるものとする。

(1)表のり被覆工

ブロック等の最低重量は2ton以上とし、又、ブロックの厚さは50cm以上を原則とする。

(2)裏込工

表のり被覆工に設置する裏込工は50cm以上の厚さとする。

又、裏込工の上層と下層の粒径比については下記の通りとする。

$$d/D > 0.15 \text{程度}$$

d: 下層の粒径

D: 上層の粒径

(3)天端被覆工

コンクリート被覆式に用いられるブロックの厚さは20cmとする。

(4)波返工

波返工の高さは、原則として50cm以下とすること。

(5)排水処理工

排水処理工は、1箇所10m幅間程度とし延長100m程度に1箇所設置するものとする。

(6)端部工

緩傾斜堤の端部は、原則として3割以上の緩傾斜で隣接施設と滑らかに接続する構造とする。